



東新

八百七十六号

温文聖龍吟

人見定房 彫春

其場と逃帰りが怪事いさしく止まらざる是の相化と見誤りし狐狸の手段

大谷盛盛小打碎

折柄一ツの大石

飯塚某是と聞見頭と

毎夜疎と打込ひのさ 兎茶釜が野雑近 天井裏へ

村の農氏鉢山権右門と言ふ者の居宅何者とも知らず

無用の怪異嚴禁の中よとて聞違え地名の武州秩父在横瀬

鬼の業と極ておき少し開て中古の狐狸のみ一切化へんは規則と定む今

繪巻物の五九夜行の筆頭は怪にて赤本の重ひは筆頭欲の化も多しゆりゆの頃

神布告の名野夫と愛仕の幽根の先住居

蕙齋芳幾

